



D.REPORT

第107期中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで



大建工業株式会社

証券コード 7905

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第107期第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)における当社グループの事業の概況をご報告申し上げます。

代表取締役
社長執行役員 億田 正則



当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う経済社会活動の制限が緩和され、全体として持ち直しの動きが続きました。一方で、ウクライナ情勢の長期化やサプライチェーンの混乱、資源価格の高騰に加え、世界的なインフレや急激な為替変動などにより、先行きは不透明感の増す状況となりました。

国内市場におきましては、コロナ禍における生活様式の変化を背景に、住宅着工やリフォーム需要は堅調に推移し、公共・商業建築分野におきましても、首都圏を中心とした各種再開プロジェクトの再開などにより、工事需要は回復したものの、原材料価格やエネルギーコストの上昇が続く厳しい経営環境となりました。

海外市場におきましては、家具・建材用途の需要増や南洋材合板の代替需要増により、MDFに対する引き合いが強まる状況が続きました。米国では、政策金利引き上げの影響を受け、住宅着工に減速感が見られるものの、木造住宅の構造材として使用されるLVLの販売価格は高い水準で推移しました。

このような経営環境の中、当社グループは、2022年度よりスタートした中期経営計画『GP25 3rd Stage』(2022-2025年度)の基本方針に基づき、サステナビリティを経営の軸に据え、「成長戦略の実行」と「経営基盤の強化」を推進しております。国内市場では、2022年新製品として、衛生面に配慮した製品やデザイントレンドを先取りした製品を発売するとともに、事業開始40周年を迎える音響製品の提案を強化するなど、ニューノーマル時代のユーザーニーズにマッチした製品展開、プロモーション活動を積極的に進めました。また、アライアンス関係にあるTOTO(株)、YKK AP(株)と合同で、リモデル提案や暮らしに役立つ情報を発信する初のオンラインイベント「TDYリモデル博」を開催し、リフォームを検討されているお客様への情報発信を強化しました。

海外市場では、MDFの収益性改善に向けた構造改革を推進するとともに、コストアップに対して自助努力で吸収

しきれない部分につきましては、国内販売分も含め売価への転嫁を進めました。なお、米国にてLVLの製造販売を行う当社連結子会社「Pacific Woodtech Corporation」(以下、PWT社)につきましては、事業拡大を目的とする増資に伴い、2022年8月1日より持分法適用関連会社となりましたが、引き続きカナダにて単板の製造販売を行う当社連結子会社「CIPA Lumber Co. Ltd.」との連携を強化することで、北米事業の拡大を図ってまいります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、次のとおりとなりました。

(連結業績) (単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	109,002	120,263	11,261	10.3%
営業利益	8,736	8,297	△438	△5.0%
経常利益	9,399	9,928	529	5.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,935	7,771	2,836	57.5%

売上高につきましては、前第4四半期連結会計期間に発生した建材事業の一部製品の納期遅延や受注制限の影響による販売減はありましたものの、国内外でのMDFや米国でのLVLの販売価格の上昇に円安効果も加わり、増収となりました。

営業利益につきましては、建材事業での減収に伴う利益減や原材料等のコストアップの影響に対し、合理化・コストダウンや売価への転嫁を進めましたが、吸収するには至らず減収となりました。一方で、経常利益につきましては、PWT社の事業拡大後の損益を持分法による投資利益として営業外収益に計上したこと、また親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、PWT社に対する持分の変動に伴う特別利益を計上したことから、それぞれ増収となりました。

株主の皆様におかれましては、倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

素材事業

素材事業につきましては、売上高は、国内外でのMDFや米国でのLVLの販売価格の上昇、国内の住宅市場、公共・商業建築分野向けのダイライトの販売増により、増収となりました。

利益につきましては、米国においてLVLの販売価格が高水準で推移したこと、また、原材料価格の上昇に対し、売価への転嫁を進めたことなどにより、増益となりました。

(素材事業の業績) (単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	47,684	58,571	10,886	22.8%
営業利益	6,392	10,255	3,862	60.4%



▲ダイライトを基材として活用した不燃造作材「グラビオルーバー」の施工例

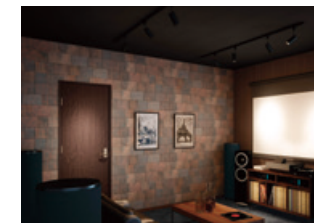
建材事業

建材事業につきましては、売上高は、ウェブ会議の急増やテレワークの定着などニューノーマルの生活様式の浸透を背景に、防音や遮音といった音環境改善に対するニーズが高まる中、提案活動を強化した音響製品で増収となりましたものの、前第4四半期連結会計期間に発生したドアの納期遅延や一部床材の受注制限による販売減の影響が続き、減収となりました。

利益につきましては、上記の減収による影響に加え、合板等の原材料価格の上昇に対して、4月出荷分よりカタログ価格の改定を実施するなど、売価への転嫁を進めましたものの、吸収するには至らず損失となりました。

(建材事業の業績) (単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	46,602	43,377	△3,224	△6.9%
営業利益又は営業損失(△)	3,371	△561	△3,933	-%



▲建築音響製品を用いた空間イメージ

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業につきましては、売上高は、オフィスビル等の内装工事の需要回復や、首都圏で手掛けるマンションリノベーションが好調に推移したことにより増収となりましたものの、利益につきましては、建設資材価格や労務費の上昇などにより減益となりました。

(エンジニアリング事業の業績) (単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額	増減率
売上高	9,997	11,996	1,998	20.0%
営業利益	391	172	△219	△55.9%



▲マンションリノベーションの事例

通期の見直し 通期の連結業績の見直しは、売上高2,340億円(前期比4.8%増)、営業利益130億円(同25.1%減)、経常利益155億円(同17.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益110億円(同39.7%増)を計画しております。

当社「音響事業」が40周年

住宅、公共・商業施設市場への製品開発と提案を積極展開

吸音天井や防音ドアなど、様々な建築音響製品の開発・製造・販売などを手掛ける当社の「音響事業」が、2022年度で40周年を迎えました。この節目を迎えるにあたり、住宅市場だけでなく公共・商業建築分野においても製品開発や提案活動を積極的に展開することで、音響事業のさらなる拡大に取り組んでまいります。

具体的には、コロナ禍でこれまで以上に音へのこだわりが多様化する中、住宅向けには、多用途で使用できる簡易防音室「サウンドマルチルーム」の提案を開始しました。公共・商業建築分野に向けては、「施設別提案書」による提案を強化するとともに、「音配慮吊戸・片引」などの新製品を投入。あわせて、当社ウェブサイト内で音に関するコンテンツを新設するなど、プロモーション面でも強化を図ってまいります。



▲ウェブサイト内新規コンテンツ「40の音物語」

各種施設向け室内ドアの標準品を「抗ウイルス」「抗菌」「耐薬品」仕様にリニューアル！

衛生面に配慮した製品展開を強化

6月21日、当社は、衛生対策製品の展開を強化するため、高齢者・医療・幼保施設に最適な『おもしろドア・おもしろキッズドア』や、公共・商業施設用の室内ドア『ハピア パブリック』の扉などの標準品を、他社に先駆けて「抗ウイルス」「抗菌」「耐薬品」仕様にリニューアルしました。3つの機能が備わることで、特定ウイルス数の減少や細菌の増殖の抑制とともに、消毒液でのお手入れが可能となり、状況に応じて柔軟な衛生対策を行うことができます。

当社では、既に直接手が触れる「にぎりバー」や「レバーハンドル」、室内の面積を占める「床材」に衛生機能を付与しており、今回、垂直部材となる「扉表面」等にも付与することで、当社ならではの衛生面に配慮した空間提案が可能となりました。



▲「抗ウイルス」「抗菌」「耐薬品」仕様の施設向けドア

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (2022年3月31日現在)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	102,286	105,627
固定資産	81,077	81,337
有形固定資産	49,451	41,145
無形固定資産	14,972	14,467
投資その他の資産	16,654	25,724
繰延資産	27	15
資産合計	183,391	186,980
負債の部		
流動負債	74,280	80,097
固定負債	18,547	13,159
負債合計	92,828	93,256
純資産の部		
株主資本	66,395	72,759
その他の包括利益累計額	10,091	10,840
非支配株主持分	14,075	10,124
純資産合計	90,563	93,723
負債純資産合計	183,391	186,980

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
売上高	109,002	120,263
売上原価	78,479	86,424
売上総利益	30,523	33,839
販売費及び一般管理費	21,786	25,541
営業利益	8,736	8,297
営業外収益	819	1,754
営業外費用	155	123
経常利益	9,399	9,928
特別利益	1,191	4,608
特別損失	233	219
税金等調整前四半期純利益	10,357	14,317
法人税等合計	3,103	2,817
四半期純利益	7,253	11,499
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,318	3,728
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,935	7,771

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,085	△815
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,871	△1,425
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,084	1,674
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	575
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,886	10
現金及び現金同等物の期首残高	17,433	17,407
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△2,779
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,546	14,638

会社データ

Corporate Profile

会社の概要 (2022年9月30日現在)

設立年月日 1945年9月26日
 資本金 153億円
 本社及び事業所
 本店 富山県南砺市井波1番地1
 本社大阪事務所 大阪市北区中之島三丁目2番4号
 東京事務所 東京都千代田区外神田三丁目12番8号
 支店 北海道支店(札幌市)、東北支店(仙台市)、首都圏第一支店(東京都千代田区)、首都圏第二支店(さいたま市)、首都圏住設支店(東京都千代田区)、信越支店(新潟市)、中京支店(名古屋)、北陸支店(金沢市)、近畿支店(大阪市)、中国支店(広島市)、四国支店(高松市)、九州支店(福岡市)、シンガポール支店
 工場 三重工場(津市)、井波工場(富山県南砺市)、岡山工場(岡山市)、高萩工場(茨城県高萩市)
 子会社(国内) 株式会社ダイフィット(鳥取県倉吉市)
 株式会社ダイウッド(三重県伊賀市)
 セトウチ化工株式会社(岡山市)
 富山住機株式会社(富山県砺波市)
 株式会社テーオーフローリング(東京都練馬区)
 株式会社ダイタック(岡山市)
 会津大建加工株式会社(福島県会津若松市)
 日南大建株式会社(鳥取県日野郡日南町)
 エコテクノ株式会社(東京都千代田区)
 ダイケンエンジニアリング株式会社(大阪市)
 鉱工業株式会社(東京都千代田区)
 三恵株式会社(大阪府東大阪市)
 株式会社スマイルアップ(大阪市)
 株式会社リフォームキュー(東京都品川区)
 株式会社パックシステム(東京都品川区)
 子会社(海外) 大建工業(寧波)有限公司(中国)
 大建阿美呢体(上海)商貿有限公司(中国)
 PT.DAIKEN DHARMA INDONESIA(インドネシア)
 DAIKEN NEW ZEALAND LIMITED(ニュージーランド)
 DAIKEN SOUTHLAND LIMITED(ニュージーランド)
 DAIKEN SARAWAK SDN.BHD.(マレーシア)
 DAIKEN MIRI SDN.BHD.(マレーシア)
 CIPA Lumber Co. Ltd.(カナダ)

役員 (2022年9月30日現在)

取締役

代表取締役 億田正則
 代表取締役 野村孝伸
 取締役 永田武
 取締役 真木正寿
 取締役 常勤監査等委員 相原隆
 取締役 常勤監査等委員 照林尚志
 社外取締役 監査等委員 石崎信吾
 社外取締役 監査等委員 浅見裕子
 社外取締役 監査等委員 向原潔

執行役員

社長執行役員 億田正則
 副社長執行役員 播磨哲男
 常務執行役員 野村孝伸
 常務執行役員 飯沼友明
 常務執行役員 永田武
 常務執行役員 松川保
 上席執行役員 伊藤雅英
 上席執行役員 東出雅彦
 上席執行役員 郷原秀樹
 上席執行役員 森野勝久
 上席執行役員 上田浩二
 執行役員 伊勢田正児
 執行役員 金田正樹
 執行役員 伊藤圭

株式データ

Stock Information

株式の状況 (2022年9月30日現在)

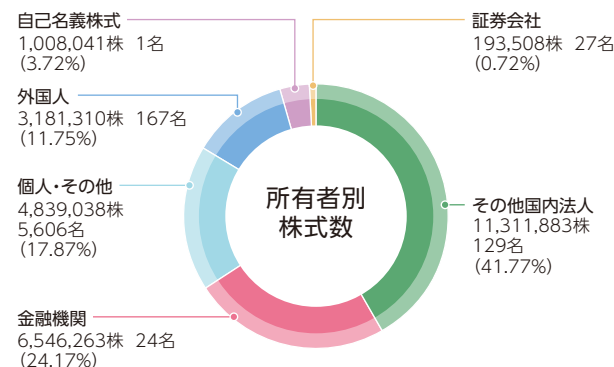
発行可能株式総数 79,643,600株
 発行済株式の総数 27,080,043株
 株主数 5,954名

大株主の状況 (2022年9月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	9,475,300	36.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,103,100	8.1
株式会社三井住友銀行	986,980	3.8
住友生命保険相互会社	931,200	3.6
大建工業取引先持株会	857,300	3.3
大建工業従業員持株会	811,339	3.1
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	743,200	2.9
日本生命保険相互会社	545,669	2.1
農林中央金庫	463,667	1.8
株式会社ジューテック	376,390	1.4

(注) 1. 当社は、自己株式を1,008,041株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況 (2022年9月30日現在)



当社のホームページでも
 詳しい情報を開示しております。

<https://www.daiken.jp/>

大建工業 検索


株主・投資家情報
 TOPページ
 「株主・投資家情報」をクリックしてください。



「株主・投資家の皆様へ」では、社長メッセージをはじめ、決算短信・業績ハイライト・有価証券報告書などの各種財務情報や、招集通知などのRイベント情報など、豊富なデータがご覧いただけます。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月開催	株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日	(郵便物送付先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-782-031
単元株式数	100株	(電話照会先)	受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
公告の方法	電子公告 (当社のホームページに掲載する) < https://www.daiken.jp/ >	(インターネットホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/ (よくあるご質問(FAQ)) https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal >
上場金融商品取引所	東京証券取引所		

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記の電話照会先までご連絡ください。なお、お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。

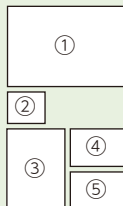
「株主総会資料の電子提供制度」の開始について

会社法改正により、「株主総会資料の電子提供制度」が開始となり、**これまで郵送していた株主総会資料（招集通知）が原則ウェブ化**されます。つきましては、本制度に関するリーフレットを同封しておりますので、ご参照ください。

なお、当社は本制度に則り、株主総会資料のうち、ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した招集通知（通知書面）及び議決権行使書用紙を書面でお送りする予定であります。ただし、2023年開催の定時株主総会につきましては、移行措置として、上記に加え、株主総会参考書類（議案部分）も書面にてお送りする予定であります。

また、**株主総会資料の全文（ただし、交付書面非記載事項を除く。）の書面での送付を希望される場合は、定時株主総会基準日（3月31日）までに、取引証券会社または株主名簿管理人（三井住友信託銀行）を通じて「書面交付請求」のお手続きを行ってください。**

表紙写真について



- ① 公共施設（図書館）の天井に採用された不燃造作材「グラビオールバーUB」〈ティーブラウン〉
- ② 「リビングドア hapia（ハピア）B9デザイン」に採用した「美細光デザイン」
- ③ 「hapia（ハピア）玄関収納」に洗面ボウルを設置したプランイメージ
- ④ 「リビングドア hapia（ハピア）ソリッド調 OPデザイン」〈コバルトブルー〉
- ⑤ 消毒液でのお手入れに対応した土足対応WPC床材「コミュニケーションタフII DW」〈オーク（クリア）〉

キノウを超える、ミライへ。

DAIKEN

UD FONT